

H23. 7. 9

大腸内視鏡検査



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。53歳。ブログ (http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorblog/nagao/) が好評。

ヒトヘモグロビン法という検査ですから、人間の血液にしか反応しません。すなわ

血便、便潜血放置しないで！

する施設、全くしない施設、少しかボーヤとさせて検査する施設など、麻酔方法も施設によりさまざまです。最近では、本人の希望にあわせて麻酔法を選択できる施設が増えています。胃の内視鏡検査が口から鼻からかを選べるのと似ています。

「便潜血陽性の精密検査がいきなり内視鏡検査？」「そのギャップは何とかならないの？」とよく聞かれます。私の施設では、30分程度で観察可能で

内視鏡検査技術の進歩はすさまじく、以前は半日を費やす大仕事だった検査が、現在では格段に苦痛の少ない検査へと進化しました。

「血便が出た！」と受診される方がおられます。特に男性は血を見る機会が少ないせいか慌てます。肉眼的に明確な血便なら、その場でS状結腸ファイバー検査を行います。通常、浣腸をすると肛門から30分程度まで観察可能です。

大腸がんは、がんの中では比較的小さな部類です。たとえ進行がんであっても、治療法にはさまざまな選択肢があります。3大がんのひとつである大腸がん克服は、まず便潜血検査と大腸内視鏡検査から始まります。次回はそこで見つかる「大腸ポリープ」についてお話しします。

Dr.

和の町



「便」シリーズ②

東日本大震災で中断していた「便シリーズ」の2回目を再開します。

検診などで便潜血陽性を指摘される方が時々います。通常2回行いますが、1回でも陽性なら「陽性」と判断されます。よく「納得いかないのでもう1回やってくれ」という方がいますが、1回でも陽性になったことに意味があります。

陽性者の精密検査は通常「大腸内視鏡検査」です。時に全身状態が悪い方、何らかの理由で内視鏡検査ができない場合は「注腸造影検査」を行います。これは肛門からバリウムと空気を入れる検査。どちらも10〜20分程度です。

が、「準備」に半日以上費やし、少々面倒です。

正確には、大腸内視鏡検査と注腸造影検査は準備（前処置と言います）が少し異なります。内視鏡検査は当日朝、約1800mlもの特殊な下剤を飲みます。数回目の排便が透明になれば準備完了。一方、注腸造影検査はもう少し「優しい」前処置になります。

肛門から内視鏡を挿入したときに感じる痛さには、相当な個人差があります。気絶するほど痛がる人、何ともない人など、さまざまです。そこで麻酔で完全に眠らせて検査

もそう思います。最近では、C工で大腸を映すことも可能になりつつあります。話題の力プセル内視鏡は主に小腸の検査です。

いずれにせよ組織検査をしたり、ポリープを切除するのは内視鏡でしかできません。ですから、最初から内視鏡専門医のいる施設を受診したほうが早道。この30年間の大腸と。

す。下痢がある人は浣腸も行わず、内視鏡を入れます。最も多い原因は、虚血性腸炎や痔核。もちろん大腸がんが見つかる場合も時にあります。大腸がんの大半は、直腸とS状結腸に発生します。便潜血陽性や肉眼的血便があっても放置される方がいますが、これはもったいないこと。

 虚血性腸炎 大腸の血流障害により炎症や潰瘍が発症し、突然の腹痛、下痢、下血をきたす。高齢者や糖尿病、高脂血症、便秘、浣腸による腸管内圧の上昇などで発症する。

私は「血便」があったおかげで命拾いした人をたくさん診てきました。怖がる気持ちも理解できますが、勇気を出して内視鏡専門医を受診してほしい。